

# レポートかわいいキャンプ

2011. 7. 2  
準備号  
盛岡市災害  
ボランティアセンター

## かわいいキャンプの準備着々すすむ ～ 大清掃 ～

2011. 7. 2



校舎内外の大清掃に携わっていただいた上川井地区、ボランティア、盛岡市役所、盛岡市社協、かわいスタッフのみなさん



宿泊室の畳拭き



図書室の本をミーティングルームに移動(旧理科実験室)



最後にごみを収集



地元の方々に草刈りしていただいた校庭

# レポートかわいいキャンプ

2011.7.5  
前夜号  
盛岡市災害  
ボランティアセンター

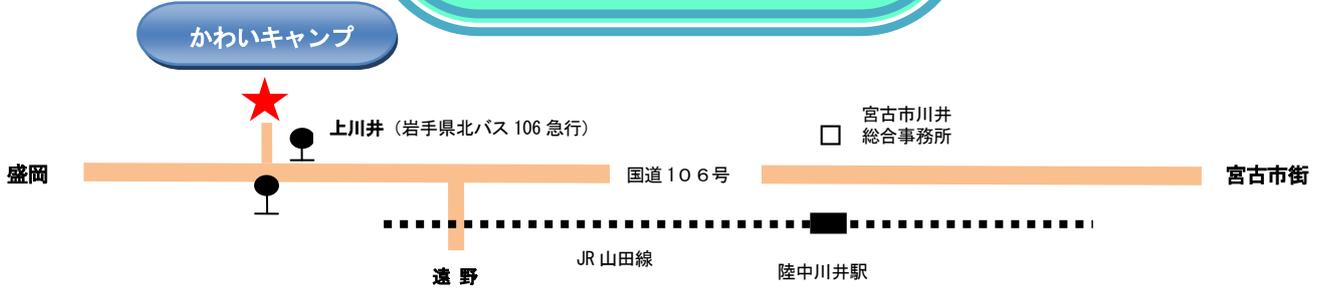
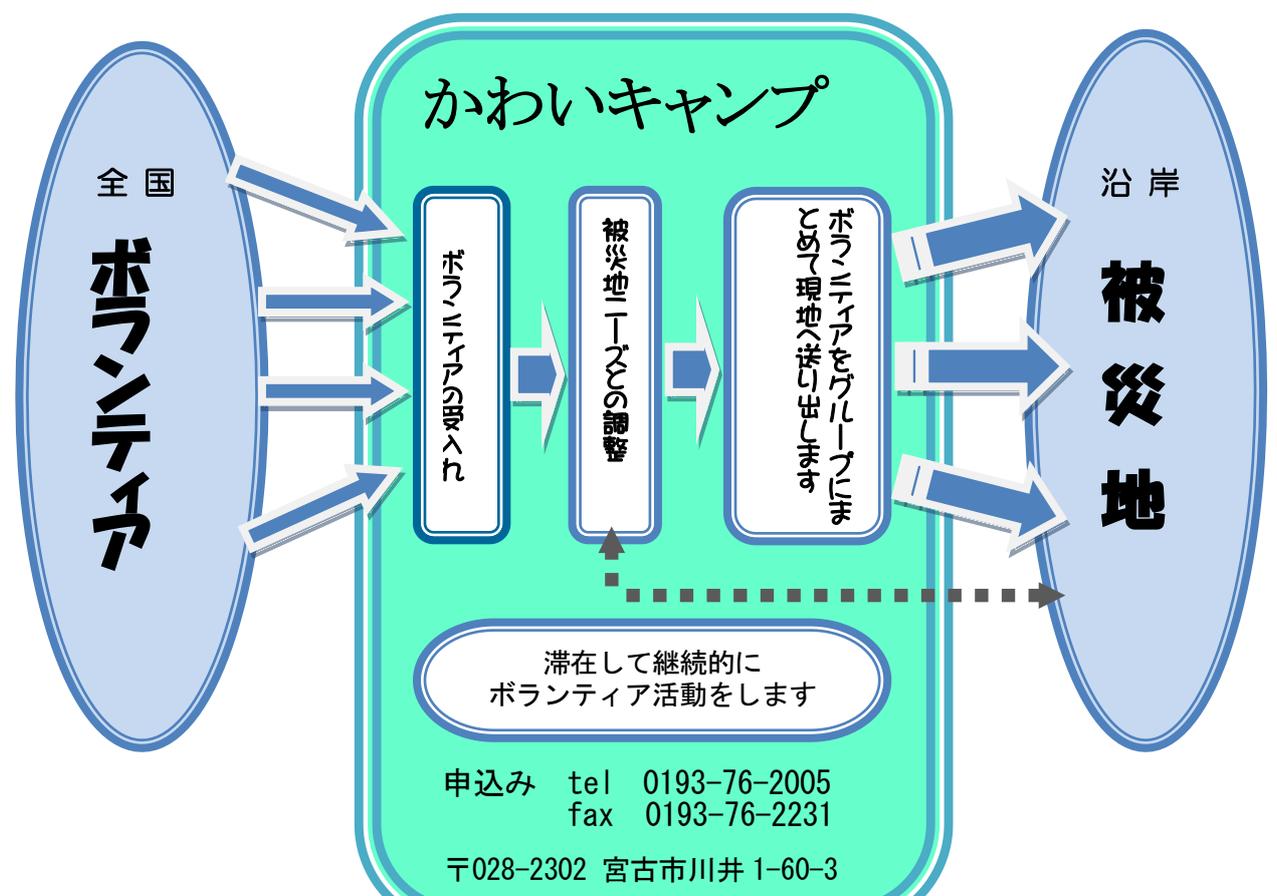
## 東日本大震災盛岡市ボランティアキャンプ

### 「盛岡市かわいいキャンプ」始動！

平成23年3月11日に発生した東日本大震災によって甚大な被害を受けた沿岸地域の復興を支援するため、盛岡市が明日7月6日、旧岩手県立宮古高校川井校（宮古市川井）に被災地復興支援活動を行うボランティアの活動拠点施設「盛岡市かわいいキャンプ」を開設します。ここには、盛岡市社会福祉協議会の職員が常駐し、運営にあたります。

#### かわいいキャンプの役割

全国から被災地支援活動を希望するボランティアを受け入れて、被災地ボランティアニーズとの調整を行い、被災地へ派遣（送迎）します



# リポートかわいキャンプ

2011. 7. 6  
創刊号  
盛岡市災害  
ボランティアセンター



## かわいキャンプ OPEN !

6日、宮古市川井の旧県立宮古高校川井校に待望の東日本大震災復興支援ボランティア拠点施設「盛岡市かわいキャンプ」がオープンしました。午前10時30分からの開所式では、施設前で開設者の谷藤盛岡市長、運営者の盛岡市社会福祉協議会桑島会長の挨拶に続き、宮古市長(名越副市長)、地元上川井地区振興会橋本会長の祝辞、かわいキャンプ瀧野所長の施設説明がありました。キャンプ協力団体のSAVE IWATEの寺井代表からは、キャンプのシンボルマークの紹介がありました。次いで、岩館副所長から出席者の方々に対して施設内の案内を行いました。



## ○ ボランティア第1号 キャンプイン ○

- 入営開始の5日宿泊したボランティアさん4名は、6日午前8時からのオリエンテーションの後、さっそく、大槌町災害ボランティアセンターとのマッチングで同町の瓦礫撤去活動に出かけました。盛岡市社会福祉協議会の送迎車ハイエースで土坂峠を越えて片道約1時間の道のりです。



盛岡市災害ボランティアセンター 019-651-1000  
盛岡市かわいキャンプ 0193-76-2005



## かわいキャン OPEN !

### ○ キャンプのシンボルマーク ヨミガエルくん ○

- キャンプ協力団体の SAVE IWATE さんの寺井代表が、6 日の開所式で発表したキャンプのシンボルマークは、同団体の仲介で漫画家の吉田戦車さん(岩手県奥州市出身)が案をつくり、デザイナーの関根信一さんが仕上げたものです。今後キャンプを紹介したり、表示したりするときなどに活用します。

ボランティアさん  
を応援するヨミガ  
エルくん



ヨミガエルくんは  
ボランティアの必  
須装備である安全  
靴をしっかりと履  
いています

### ○ 山田町へ出発 ! ○

- きょう 5 名のボランティアさんが、山田町の写真洗浄・整理作業に参加しました。被災地現場から収集された写真の泥や砂を、刷毛などで一枚一枚丁寧にふき取るもので、とても根気のいる作業です。今後、整理を終えた写真は、ご家族やお知り合いの方などに見ていただき、返却することとなります。



オリエンテーションでのボランティアさん

### ○ キャンプスタッフも始動 ! ○

- キャンプには、ボランティアさんの受付、説明、現地送迎、現地災害ボランティアセンターとのマッチング、車両の手配、物品の調達・管理、施設の巡回点検などを行うため、盛岡市社協の職員 11 名のスタッフが常駐しています。盛岡市社協本部からの 4 名が交代で務めるとともに、新たに地元川井地区や沿岸被災地域から 7 名を採用しています。
- 慣れない場所での滞在生活や活動内容など、ボランティアさんのお世話・ご相談にも応じています。



キャンプスタッフ (事務室)



## キャンプ利用状況(7月12日現在)



○ 宿泊利用者数 延べ41名 \*7/11 宿泊分までの累計

・キャンプが開設して1週間経ちました。施設管理のことも含め、想定外のことも多く発生します。スタッフはできるだけ情報を共有しながら、共通認識の上に対応するよう努めております。

### ■ 盛岡市からキャンプに自転車の寄贈！ ■

○ 12日、盛岡市からキャンプに、復興応援自転車8台の寄贈がありました。この中には、東京都豊島区から贈られたものも含まれております。キャンプで食事等の買い出しを行うときは、2キロ程度離れたお店に行かなければなりません。この自転車はたいへん重宝すること請け合いです。また、夏の朝や夕暮れ時の散策に、自転車を利用することもお勧めします。



○ ここ川井地区は、国道の交通量が多く十分な注意が必要です。特に、夜間のお出かけはできるだけ控えましょう。

### ■ 余震と雷 ■

- このところ、沿岸部では震度4クラスの余震が続いています。屋外での活動中の場合は、作業を中断しボラセンの迅速で明確な指示を待つところですが、まず各リーダーの適確な判断も必要です。津波注意報や警報が出され、解除にならない限りは、作業の再開は絶対にいけません。
- ところで、きょう午後1時頃建物が揺れるくらい大きな雷鳴とともに、川井地区一帯は1時間にわたって停電となりました。もちろん、キャンプの事務もその間中断しました。



## キャンプ利用状況(7月15日現在)



○ 宿泊利用者数 延べ80名 \*7/14 宿泊分までの累計

・ボランティアさんはまだまだ少ない状況ですが、各ボラセンからのニーズはあり、支援活動は軌道に乗りつつあります。今回、大槌町の支援活動を紹介します。

### ■ 大槌町の写真洗浄 ■

- 14日から、大槌町ボランティアセンターとのマッチングで、被災現場から収集された写真やアルバムの洗浄活動をしております。津波で流されて持ち主の分からない写真やアルバムなどを所有者の方に返却するため、同町の総合運動公園相撲場の屋根の下で作業を行っています。写真やアルバムの多くは、土や砂などの埃を被っていることから、一枚一枚丁寧に水で洗浄し、乾燥させます。
- 未処理のものがたくさんあります。8月のお盆期間中には写真返却展を行う予定とのことです。継続しての活動が見込まれます。作業は、3月末から取り組んでいるNPO法人パレスチナ子どものキャンペーンさんの指導を受けて行っております。



### ■ 大槌町吉里吉里地区の瓦礫撤去 ■

- 14日、8名のボランティアさんが大槌町吉里吉里(きりぎり)地区で個人宅の家の瓦礫撤去活動を行いました。屋外の作業に出かけるときは、クーラーボックス(飲料水入り)、休憩時等に日陰をつくるタープ、救急セットをリーダーに持参させます。また、安全靴、マスクなどは、個人の必需品です。





## キャンプ利用状況(7月18日現在)

○ 宿泊利用者数 延べ118名 \*7/17 宿泊分までの累計

- ・かわいキャンブは、ボランティアさんが滞在しながら被災地の支援活動に携わっていただくことを目的としております。ボランティアさんが元気にボランティア活動に従事できるよう、生活環境を整えたり、激励することは被災地への支援に繋がるものです。
- ・キャンブは、ここでの生活を通して宮古や盛岡の風土を知り、人々とのふれあいができるような機会をつくることも大切なことと思っております。

## ■ 元気を充電！ 焼き鳥炊き出し交流会 ■

- きのう17日、アジア航測(株)盛岡支店さん(支店長 菅原 脩さん)とタックエンジニアリングさんのCRS活動(社会貢献活動)に呼応された、焼き鳥「鳥正」さん、サンワミートさん、NPO法人アイディングさんとの共催により焼き鳥500本の炊き出しがありました。この炊き出しは、「ボランティア活動をされている方々に、疲れた体を癒して頂く」ことをコンセプトとして行われたもので、ボランティアさん約20名と、地元の上川井地区振興会、宮古市川井総合事務所、盛岡市復興推進部、キャンブスタッフとの交流を兼ねて行われたもので、合わせて50名を超える方々が参加しました。会場となったキャンブ前広場は、消灯時間直前まで賑やかでした。
- アジア航測さんを始めとするメンバーの方々は、これまでも沿岸被災地各地で「焼き鳥1000本お届けプロジェクト」による炊き出し活動を行っています。



炊き出しスタッフ代表 菅原さん



上川井地区振興会長 橋本さん



ボラ代表 鮎川さん (大阪)





## キャンプ利用状況(7月21日現在)



○ 宿泊利用者数 延べ 147名 \*7/20 宿泊分までの累計

・このところキャンプへの問い合わせなど引き合いが増えてきました。なかには、「キャンプ」と聞いて、野営(キャンプ)しながらボランティアをするところと勘違いする方もたまにおります。全国的に知名度が上がり、滞在環境の良さがアピールできるようになれば、そういうこともなくなってくるものと思っています。

### ■ 宿泊定員を 120 名に増員しました ■

- 現在、キャンプの宿泊定員は 100 名(男性 60 名、女性 40 名)としておりますが、このところ、夏休みなどを利用した学生さんや社会人などの利用申込みが増えてきております。この状況に対応するため、宿泊部屋の広さなども考慮し 20 名分増やし、120 名定員(男性 70 名、女性 50 名)とすることとしました。
- 畳の増床も必要となり、古畳 50 枚の斡旋を盛岡市へお願いしました。

### ■ キャンプの記念に木製コースターを ! ■

- 盛岡市から杉の間伐材を活用した約 85 ミリ四方の木製コースターとキャンプインマークのスタンプが届きました。キャンプでは、手軽な記念として持ち帰っていただけるよう、さっそく廊下のパンフレットコーナーに並べました。緑と赤、お好みの色をどうぞ !





## キャンプ利用状況(7月25日現在)



○ 宿泊利用者数 延べ218名 \*7/24 宿泊分までの累計

・現地での活動中に、リーダーに断りもしないで勝手な行動をすることは絶対行ってはいけません。特に、屋外作業のときは、現地での活動はチームプレーです。リーダーの指示に従い作業と休憩のメリハリをつけて活動することが大切です。

### ■ 宮古から瓦礫撤去、泥出し作業のニーズ ■

- 宮古市ボラセンでは、今後ボラセンを閉鎖し復興支援センターを立ち上げるに当たって、このほど被災住民の方々に対してアンケート調査によるニーズの洗い出しを行いました。その結果、個人宅の瓦礫撤去や泥出し、側溝の泥出しなどの要望が上がってきているとのこと。
- 宮古市ボラセンとの調整で、キャンプにとって宮古市では初めての屋外作業となりますが、きのう24日は末広町と大通りの瓦礫撤去・泥出し、きょうも継続した活動を行う予定です。

### ■ 宿泊室に名前をつけました ■

- キャンプの開設以来宿泊室は、利用者さんからは女子部屋とか男子部屋と呼ばれてきましたが、今後利用者さんが次第に多くなり部屋割りを行う場合もあることや、滞在される部屋に愛着を持っていただきたいことなどから、このたび宿泊室に名前をつけることとしました。命名にあたっては、キャンプの地元ゆかりのものなどを念頭にスタッフ会議で決定しました。よろしくお願いします。

☆ 女性宿泊室 はまぎく(宮古市の花) ツツジ(旧川井村の花)

☆ 男性宿泊室 やまびこ(道の駅やまびこ館) しらかば(旧川井村の木) さんさ(盛岡さんさ)



女性宿泊室



男性宿泊室



## キャンプ利用状況(7月30日現在)



○ 宿泊利用者数 延べ 370 名 \*7/29 宿泊分までの累計

・川井地区は、宮古市の沿岸からは約 35 ㎞も離れていることもあって、ここでの天気の状態から沿岸地域の天気を推し量ることはできません。屋外作業の可否は、現地のボラセンの判断によることとなります。雨による活動途中での中止の指示も同様です。

## 雨の日のオリエンテーション

- あいにく、きょうはキャンプの外は小雨模様でした。今朝のオリエンテーションは、食堂兼ミーティングルームで行いました。玄関前で清々しい空気を吸いながら行う場合と違って、開口一番の「おはようございます！」にも少々が入らないところがあります。
- きょう、山田町と大槌町では雨が降っていなかったことから、予定どおり個人宅の瓦礫撤去作業にボランティアさんを送り出しました。



今朝のオリエンテーション (食堂兼ミーティングルーム)



小雨の中山田町へ向けて出発

## 宮古市仮設住宅でサロン活動始まる

- きょう 29 日、キャンプから初めて宮古市仮設住宅でのサロン活動に参加しました。上村(わむら)地区(12 戸)と日立浜町(浄土ヶ浜)地区(30 戸)の仮設住宅集会所で、それぞれ 2 名のボランティアさんが世話人として活動しました。サロンの周知が十分ではない中、ボランティアさん是对応に苦勞しました。上村住宅には 4 名の方が訪れましたが、日立浜町はゼロでした。サロン開設当初は、各戸チラシの配布による呼び掛けとともに、まず仮設住宅にお住まいの方々が足を運んでいただけるミニイベントの開催など、宮古市ボラセンと連携して行うことが必要です。